# 福島第一原子力発電所現地確認報告書

## １　確認日

令和８年５月２９日（金）

## ２　確認箇所

・中割ヤード、小割テント、滞貨ヤード（図１）
・瓦礫類一時保管エリアＦ（図１）
・多核種移送設備建屋（図１）

## ３　確認項目

（１）１号機原子炉建屋オペフロガレキ小割解体ヤードの整備状況
（２）瓦礫類一時保管エリアＦの状況
（３）多核種除去設備等処理水の試料採取状況

## ４　確認結果の概要

### （１）１号機原子炉建屋オペフロガレキ小割解体ヤードの整備状況

東京電力では、１号機使用済燃料プールに貯蔵されている計３９２体の燃料について、より安定した冷却・貯蔵が可能となる共用プールへの搬出を計画している。

また、燃料取り出しに先立ち、原子炉建屋を覆う大型カバーを設置しており、今後、大型カバー内でガレキ撤去、オペレーティングフロアの除染・遮へい、燃料取扱設備の設置を行うこととしている。

本日は、ガレキ撤去作業において、オペレーティングフロアから搬出されたガレキの運搬先である滞貨ヤードや、ガレキを切断しコンテナに詰める小割テント、α核種による汚染がないことが確認された大型ガレキを取り扱う中割ヤードの設置状況を確認した。

・滞貨ヤードが設置される予定の２号機タービン建屋東側では確認時に作業は行われていなかったが、ヤードは単管パイプで区画されており、地面には鉄板が敷かれていた。また、コンクリート製のＬ型擁壁が置かれていた。（写真１）
・小割テントは骨組みの組み立てが行われており、北側の側面にはテントのシートがかけられていた。作業員は墜落制止器具を使用し作業を行っていた。また、熱中症対策としてＷＢＧＴ値が掲示されていた。（写真２）
・小割テントの設置作業エリアの資機材は整然とした状態で仮置きされていた。また、緊急時資機材として消火器や油を吸着するマットが備え付けられていた（写真３）
・中割ヤードの予定場所である１号機北側では作業は行われていなかったが、区画に物品は置かれておらず鉄板が敷かれていた。（写真４）

## （２）瓦礫類一時保管エリアＦの状況

東京電力では、中長期ロードマップの目標工程である「２０２８年度内までに、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外での保管を解消」を達成するため、屋外で一時保管されている瓦礫類等の固体廃棄物を屋内保管へ移行し、屋外一時保管エリアの解消作業を進めている。

県では、固体廃棄物の保管状況を継続して確認しており、今回はガレキ類の破砕の作業等が行われている瓦礫類一時保管エリアＦ（以下「一時保管エリアＦ」という。）の状況を確認した。（前回確認：令和８年４月２４日）

・一時保管エリアＦ西側では、確認時には当日作業分の破砕は終了しており、機器の点検が行われていた。
・ガレキ類が入った１ｍ$^3$コンテナが最大４段積みで保管されていた。確認した範囲において、コンテナの内容物の飛散や転倒等の異常は認められなかった。（写真５）
・廃棄物を破砕するための破砕機がカバー内に設置されていた。破砕作業の際に放射性物質の飛散がないか確認するために使用するダストサンプラが置かれていた。（写真６）

## （３）多核種除去設備等処理水の試料採取状況

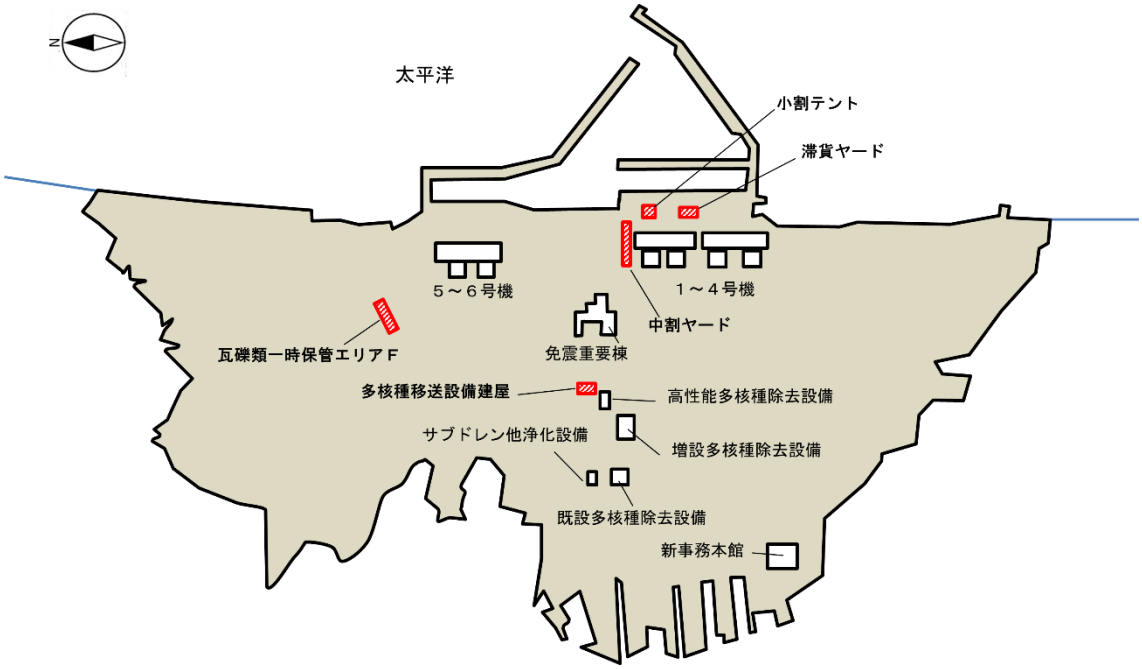
東京電力では、多核種除去設備等処理水（以下「ＡＬＰＳ処理水」という。）の海洋放出に当たり、希釈前のＡＬＰＳ処理水の放射性核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。また、トリチウムについても、ＡＬＰＳ処理水を海水で希釈した放流水について、法令上の基準（６０，０００Ｂｑ／Ｌ）を下回る運用目標（１，５００Ｂｑ／Ｌ）を設定し、当該基準値未満であることを確認した上で海洋放出を行っている。

今回、ＡＬＰＳ処理水の第２１回目（令和８年度第３回目）※の放出に向け、放射性核種濃度等の測定に係る希釈前処理水の試料採取（サンプリング）が多核種移送設備建屋（以下「建屋」という。）において実施されたことから、その状況を確認した。（前回確認：令和８年４月２０日）

※ＡＬＰＳ処理水放出（第２１回目）：Ｈ１東エリアのタンクに貯留しているＡＬＰＳ処理水を対象としている。なお、サンプリングは、測定・確認用タンク（Ａ群）に移送完了後、循環攪拌運転を行った上で実施している。

・サンプリングは、建屋内のサンプリングラインＡ系から実施され、作業員同士による作業内容の復唱や指差呼称により、試料が安全かつ確実に採取されていた。（写真７）
・作業中に、試料の外部漏えいや飛散等の異常は認められなかった。
・サンプリング後の試料については、建屋入口付近に設置されたクリーンエリアに仮置きされていた。容器表面の水の付着や容器からの水漏れが無

いことを確認し、試料情報のラベリング及び封印処置が適切に施されていた。（写真８）




（図１）福島第一原子力発電所構内概略図




（写真１）
滞貨ヤードが設置される区画
（２号機タービン建屋東側）



（写真２－１）
小割テントの設置作業




（写真２－２）
ＷＢＧＴ値の掲示
（装備補正含め ＷＢＧＴ２３．５）



（写真３－１）
小割テント設置作業エリアに仮置きされた資機材




（写真３－２）
作業エリアに据え付けられた消火器




（写真３－３）
作業エリアに据え付けられた緊急時資機材（土のう、油吸着マット）



（写真４）
中割ヤードが設置される区画
（１号機北側）



（写真５－１）
一時保管エリアＦ西側の状況




（写真５－２）
ガレキ類が入れられたコンテナ
（コンテナに表面線量率が記載）



（写真６－１）
破砕機の設置状況



（写真６－２）
ダストサンプラの状況



（写真７）
サンプリングの状況



（写真８―１）
容器封印処置の状況



（写真８－２）
サンプリング後の試料の仮置き状況

## ５　プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。